

物流の「2024 年問題」とロジスティクスにおける人材育成

第 41 回全国大会実行委員会

我が国では、近年、人手不足や労働条件の改善などロジスティクスにおける労働力に関する多くの課題を抱えてきた。とりわけ、自動車運転業務の時間外労働の上限規制が 2024 年 4 月から適用されたことで、今後、物流の停滞が発生することが懸念されている。こうした物流の「2024 年問題」とも呼ばれている課題への対策として、荷主、物流会社が協力し、官民挙げた早急な対策が進められている。とりわけ政府は、持続可能な物流を構築するため、物流の適正化、生産性向上に向けた取り組みを進めるとし、物流プロセスの課題を解決し、物流の合理化を図る措置の検討、経営者層の意識改革を促す措置の法制化がなされた。

こうした物流の「2024 年問題」の解決のためには、ドライバーの働き方改革を始めとした緊急的な対策に留まるのではなく、長期的な視野で問題の本質を捉えて、根本的な問題解決を行う必要がある。その中でも、競争が激しく常に変化している業界において、更なる付加価値創造のために、適切に教育された労働力の確保に向けた人材育成が必要不可欠である。

ロジスティクスにおける人材育成については、多様な側面を考慮した教育体系の構築が求められている。まずは、ロジスティクスの主要業務である在庫管理、輸送管理、サプライチェーン管理などに関する高度な専門知識の習得が重要となる。とりわけ近年、技術革新が急速に進んでいることから、自動化や最適化、人工知能、データサイエンスなどの理論や技術を理解し、活用できる能力が求められている。更に、学問としての理論だけでなく、実践的な経験を通じて、問題解決や意思決定に関する能力を養うことも重要である。その際、変化への適応力として、市場の変動、技術の進化、新たな規制などに柔軟に対応できる能力が求められている。近年では、行政による高度物流人材の育成・確保に関する取り組みが進められるとともに、企業において人材育成を行う教育プログラムの運営がなされている。

本大会では、物流の「2024 年問題」とロジスティクスにおける人材育成の在り方について、企業、業界団体、行政、大学が、どのように連携し、取り組むべきかをテーマとして、広い視点から議論するものである。